

大豆 狭畦栽培の雑草防除について

狭畦栽培の場合、中耕による除草作業がないため、より徹底した雑草防除が必要です（**播種後の除草剤散布は必須**）。難防除雑草は薬剤処理からの回復が早いです。小さいうち（草丈が10cmまで）に除草剤を散布し、生育を抑えましょう。**播種2週間後（2葉期）に1回目防除、1回目防除の1週間後（4葉期）に2回目防除が目安です。**



マルバアサガオ
(帰化アサガオ類)



マメアサガオ
(帰化アサガオ類)



フウリンホオズキ
(ホオズキ類)

大豆 害虫防除の適期について

◇吸実性カメムシ類

今年の吸実性カメムシ類の発生は**平年より多い**と予想されています（三重県病害虫防除所 令和8年度病害虫発生予報第4号）。

- ・吸汁により莢伸長期では莢落ち、子実肥大期では不稔や被害粒を生じます。
- ・吸汁が激しいと青立ちの原因となり収穫作業に支障がでます。

○**薬剤防除の適期 1回目 莢伸長期（開花20日後）**

2回目 子実肥大期（開花40日後）

※1回のみの場合は子実肥大期初期（開花30日後）

ほ場の外からは発生状況の把握が難しく、発生を見落とす可能性があります。

生育を確認し**開花期を把握して防除計画**を立てましょう！

【開花期の目安】

（サチユタカA1号）6月中下旬播種→8月上旬

（フクユタカ、そらみのり）7月上旬播種→8月上旬

7月中旬播種→8月下旬

7月下旬播種→9月上旬



ミナミアオカメムシ (成虫)



ミナミアオカメムシ (幼虫)



ホソヘリカメムシ

◇ハスモンヨトウ

今年のハスモンヨトウの発生は**平年よりやや多い**と予想されています（三重県病害虫防除所 令和8年度病害虫発生予報第4号）。例年、成虫は8月下旬から急増し、白変葉は9月から増加し始めます。

○**薬剤防除の適期 白変葉の発生が見られた直後**

ほ場の観察による卵塊や白変葉の早期発見が必要です！

防除が遅れ、中齢～老齢幼虫になると薬剤の効果が劣ります。



葉裏の卵塊



白変葉と若齢幼虫

ご相談・お問合せ

桑名地域農業改良普及センター水田担当（電話：0594-24-3642）